



たのしみは

副校長 小澤 孝之

9月に入ってから、何度となく校庭に出る機会がありました。初旬には、まだセミの鳴き声が校庭を覆っていましたが、中旬を過ぎるころからセミの鳴き声に交じってコオロギなどの虫の音が聞こえるようになってきました。下旬にはすっかりセミの声は聞こえなくなり、夕方から夜にかけて虫たちの合唱が聞こえてくるようになりました。6月からのあの暑さも朝晩はやっと落ちついてきました。

ある日、校舎内を歩いていると6年生の廊下に掲示してある短歌に目が留まりました。それは、「たのしみは」で始まり、「時」で結ぶものでした。6年生は修学旅行での思い出を短歌に込めていて、多くの思い出ができたことがよくわかり、短歌を詠むことで子どもたちの思い出を共有させてもらった気がしました。

今、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行動が制限されて2年が経ちました。楽しいことも制限されてできなかったことも多かったのではないのでしょうか。学校行事も昨年度までは、実施できないものが多くあり、歯がゆい思いもしました。今年度は少しずつ行事も実施できるようになり、7月までに4年、5年、6年の宿泊行事が実施されました。この夏休みは久しぶりに行動制限がありませんでした。そのおかげでしょうか、夏休み明けの子どもたちの記録にも楽しかったことが多くかかれています。少しずつ「たのしみ」が戻りつつあるのを感じます。

季節も秋になり、「スポーツ」「芸術」「食欲」など様々なことに取り組みやすい季節になりました。まだまだコロナ禍ではありますが、「たのしみ」を見つけることを通して、明るく前向きに生活ができたらと思います。皆様も「たのしみは」で始まり、「時」で終わる短歌、作ってみてはいかがでしょうか。

今月にはYSF(洋光台スポーツフェスティバル)、来月にはHMF(ハッピーミュージックフェスティバル)を実施する予定です。昨年度までと比べて少しずつではありますができることが増えつつあります。どちらの行事も多くの子どもたちが一生懸命に練習し、本番では輝く姿を見せてくれることと思います。私たち職員も全力で子どもたちとともに今できる最高の行事を目指して努力していきたいと思っています。



5年生が育てている稲。
収穫の時間が近づいています。